

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地				
岩国YMCA国際医療福祉専門学校	平成10年3月31日	上久保 昭二	〒740-0018 山口県岩国市麻里布町2-6-25 (電話) 0827-29-2233				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人 広島YMCA学園	昭和42年3月22日	松井 敏	〒730-8523 広島県広島市中区八丁堀7-11 (電話) 082-228-2266				
目的	保健・医療及び福祉等に関する専門的知識および技術を教授し、キリスト教精神に基づき、豊かな人間性を養い、地域の保健・医療・福祉の向上に貢献できる人材を育成する。						
分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
医療	医療専門課程	保健看護学科		平成17年文部科学省告示第170号			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼間	3,870	2,280	285	1,305		
単位時間							
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数			
200人	143人	16人	48人	64人			
学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 科目試験・実習の成績、履修状況、その他の方法に基づいて行う。成績基準はA: 80～100点、B: 70点～79点、C: 60点～69点、D: 60点未満。A/B/Cは合格、Dは不合格			
長期休み	■夏 期: 7月下旬から8月下旬 ■冬 期: 12月下旬から1月上旬 ■春 期: 3月下旬から4月上旬		卒業・進級条件	保健看護学科の教育課程を修了した者で、本校の定める授業科目、単位数を履修し、授業科目の各々の単位を認定され、在学年限内のもので、出席日数が出席すべき日数の3分の2以上の者。			
生徒指導	■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 保護者に連絡し、状況の応じて、保護者面談、三者面談を行う。欠席中も定期的に本人に連絡を入れ様子を確認する。		課外活動	■課外活動の種類 英会話、茶道、トーンチャイムなど ■サークル活動: 有			
就職等の状況	■主な就職先、業界等 岩国市医療センター医師会病院、国立病院機構岩国医療センター・JA広島総合病院・国立病院機構広島西医療センターなど ■就職率^{※1}: 100 % ■卒業者に占める就職者の割合^{※2}: 96 % ■その他 (平成28年度卒業者に関する平成29年5月1日時点の情報)		主な資格・検定等	看護師国家試験受験資格 保健師国家試験受験資格 第1種衛生管理者(保健師資格取得者) 大学院受験資格 助産師学校受験資格			
中途退学の現状	■中途退学者 12名 平成28年4月1日 在学者 146名 平成29年3月31日 在学者 134名		■中退率 8 % 平成28年4月1日 入学者を含む 平成29年3月31日 卒業者を含む				
■中途退学の主な理由 家庭の事情、進路変更、学習意欲の低下、成績不振、体調不良など							
■中退防止のための取組 定期的面談による問題の早期発見と非常勤講師等の情報の共有。スクールカウンセリングの活用、保護者との面談実施							
ホームページ	http://iwakuni-ymca.jp						

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

急速な少子高齢化の進展、医療技術の進歩の中で保健師・看護師への社会のニーズは多様化してきている。その中で、安全で質の高い看護を提供することはもとより、社会の変化にも対応していける保健師・看護師を育成していくことができるよう、実習施設や地域福祉活動の関係者それぞれの立場から意見をいただき、教育課程の編成に反映していく。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成29年4月1日現在

名前	所属
浴森 公子	山口県看護協会常務理事(岩国市医療センター医師会病院 看護部長)
白銀 優子	岩国中央病院 総看護部長(第三期卒業生)
村岡 恒信	ボランティアの会会長 自治会長 保護司
福水 美恵	岩国YMCA国際医療福祉専門学校 校長補佐兼特別顧問
江見 享子	岩国YMCA国際医療福祉専門学校 保健看護学科 学科長
矢野 結花	岩国YMCA国際医療福祉専門学校 看護学科 学科長
沖島 均	岩国YMCA国際医療福祉専門学校 事務長

(開催日時)

第1回 平成28年5月24日 18:00～19:00

第2回 平成28年12月19日 18:00～19:10

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

各分野で行っている臨地実習については、それぞれ実習目的・実習目標・実習内容を示し各病院・施設に理解を得た上で、学生が実習目標に到達することができるよう、実習指導者と教員で意見交換を図り連携をとりながら指導を行っていく。

科目名	科目概要	連携企業等
基礎看護学実習Ⅰ	入院患者の療養環境を知り、患者にとっての良い環境を考える。患者の健康状態の把握をし、日常生活上の必要な援助を実施する。	岩国市医療センター医師会病院 国立病院機構広島西医療センター
基礎看護学実習Ⅱ	対象の発達特性・健康特性を踏まえ、看護問題を解決する援助計画を立案・実施・評価する。	岩国市医療センター医師会病院 国立病院機構広島西医療センター
成人看護学実習Ⅰ	急性期にある患者の看護を学ぶ。	岩国市医療センター医師会病院
成人看護学実習Ⅱ	終末期にある患者の看護を学ぶ。	国立病院機構広島西医療センター
成人看護学実習Ⅲ	慢性期にある患者の看護を学ぶ。	岩国市医療センター医師会病院
老年看護学実習Ⅰ	施設・在宅における高齢者の看護を学ぶ。	老人保健施設 ひまわり
老年看護学実習Ⅱ	健康障害を持つ高齢者の看護を学ぶ。	国立病院機構広島西医療センター
小児看護学実習	小児とその家族を理解し、対象に応じた看護が実践できる基礎力を養う。	国立病院機構広島西医療センター 岩国市立くろいそ保育園 岩国市立ひがし保育園
母性看護学実習	周産期の看護を学ぶ。	国立病院機構岩国医療センター JA広島総合病院 徳山中央病院 総合病院山口赤十字病院
精神看護学実習	精神障害をもつ患者の看護を学ぶ。	国立病院機構賀茂医療センター 草津病院

在宅看護論実習	在宅における生活援助技術を習得する。	訪問看護ステーションピース・つくし・アイリス・ハローナース西広島・ゆうあい
公衆衛生看護活動展開論実習Ⅰ	個人・家族・集団・組織の健康増進・改善を目指す支援の実際を理解し、市町における保健師の役割を学ぶ。	岩国市保健センター 岩国市地域包括支援センター
公衆衛生看護活動展開論実習Ⅱ	地域特性及び地域のニーズを把握し、健康課題を抽出し、保健計画を立案する方法を学ぶ。	和木町保健相談センター 田布施町保健センター 周防大島町健康増進課
公衆衛生看護活動展開論実習Ⅲ	産業や学校における健康課題や場の特性を理解し、保健活動の実際を学ぶ。	岩国市立東中学校、岩国市立麻里布小学校、岩国市立川下中学校、帝人事業所、日本製紙
公衆衛生看護管理論実習	健康福祉センターの事業の実際を学ぶ。保健事業と保健師活動の実際を学ぶ。	岩国健康福祉センター
総合実習	専門分野での実習をふまえ、看護業務の実際を学ぶ。	岩国市医療センター医師会病院 国立病院機構広島西医療センター

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

「教職員研修規程」に基づいて各教職員の専門分野の知識・技術の向上および、教育力の向上を図り、質の高い教育実践を目指すために研修の計画を行う。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成29年4月1日現在

名 前	所 属
柏村 雅実	岩国YMCA国際医療福祉専門学校 卒業生保護者
浴森 公子	岩国市医療センター医師会病院 看護部長
白銀 優子	岩国中央病院 総看護部長(第三期卒業生)
山崎 幹	岩国第一病院 事務部顧問
半田 達也	介護老人保健施設 みどり荘 事務長
福水 美恵	岩国YMCA国際医療福祉専門学校 校長補佐兼特別顧問
金澤 暁民	岩国YMCA国際医療福祉専門学校 教員 自己点検自己評価委員
沖島 均	岩国YMCA国際医療福祉専門学校 事務長

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL: <http://iwakuni-ymca.jp/content/pdf/koukai/gakkouhyouka-iin-jikohyouka-kouhyou.pdf>

5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL: <http://iwakuni-ymca.jp/disclosure.html>

授業科目等の概要

(医療専門課程 保健看護学科) 平成29年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
○			物理学	日常生活の身近な物理現象、医療や人体に関連した物理現象を理論と結びつけて学ぶ。	1前	30	1	○			○			○		
○			情報科学	パソコンの基本操作を学習し、それらを応用的に活用する能力を養う。	1前	30	1	○	△		○				○	
○			教育学Ⅰ	教育をめぐる基本的事象及び教育学の基礎的概念を学ぶ。	1前	30	1	○			○				○	
○			教育学Ⅱ	学校における教育課程、日常の教育活動のあり方を学ぶ。また生徒指導の基礎的知識を習得し、教育諸活動の臨床的視点・態度を養う。	2後	30	1	○			○					○
○			文学	日本語を対象的に学び、コミュニケーションのための正しい日本語を習得する。また基本的な表現を身につけるだけでなく、相手の理解を促すことを意識した表現方法を学ぶ。	1前	30	1	○			○					○
○			英語	医療職としてどのような英語表現力と理解力を習得する必要があるのかを認識し、専門用語力と共に英語運用力を養う。	1全	60	2	○			○					○
○			心理学	医療人に必要とされる基礎的な人間心理・行動理解の仕方、医療に特有な諸問題とそれへの対応について学ぶ。	1前	30	1	○			○					○
○			倫理学	自然科学を基軸として合理的な思考に対する人間存在とは何かを思考する能力を養う。人権の重要性について学び、看護専門職の特性を考える。	1前	30	1	○			○					○
○			法学	法をもとに、看護専門職として必要な医療倫理について思考する能力を養う。	1後	30	1	○			○					○
○			社会学	社会的存在としての人間を理解するとともに、多様な社会の中で幅広いものの見方ができる能力を養う。	1前	30	1	○			○					○
○			人間関係論	社会心理学的な観点から、人間関係について考える。カウンセリングについての基本的知識の理解を深めると共に、看護場面におけるカウンセリングの意義について考える。	1後	30	1	○			○					○
○			スポーツ・健康科学	日常生活における運動の必要性について学ぶ。日常生活の中でできる運動をするための方法・運動強度について学ぶ。	1前	30	1	△	○		○					○

○		看護学概論Ⅰ	看護実践の基本となる概念である看護の本質、看護の対象としての人間理解、生活の要素と健康との関わりを理解し、保健医療福祉の中で看護の果たす役割について学ぶ。	1前	30	1	○			○	○							
○		看護学概論Ⅱ	看護実践の基本となる倫理の必要性和、看護場面における倫理的課題の基礎的知識を学ぶ。看護理論について学ぶ。	1後	30	1	○			○	○							
○		看護方法論Ⅰ (生活援助技術)	人間の尊厳を基盤とした技術の理論や倫理に基づき生命と生活の過程を整える技術について学ぶ。その上で日常生活行動面の援助技術の基礎的知識を学び、理論的根拠に基づいた看護実践のための技術演習を行い、生活援助技術を習得する。	1全	60	2	○	△		○	○							
○		看護方法論Ⅱ (治療関連技術)	生命の安全を基盤とした理論に基づき、検査や治療の過程における診療の補助技術について学ぶ。その上で、検査・治療・処置面の援助技術の基礎的知識を学び、確実に適切な理論的根拠に基づいた看護実践のための技術演習を行い治療関連技術を習得する。	2全	60	2	○	△		○	○							
○		看護方法論Ⅲ (ヘルスアセスメント)	看護実践の根拠となる効果の測定・評価の目安となる指針を学ぶ。その上でフィジカルイグザミネーションの技術演習を通して、情報収集技術を習得する。	1後	30	1	○	△		○	○							
○		看護方法論Ⅳ (コミュニケーション)	コミュニケーションの意義と効果的なコミュニケーション技術を実践するための知識を習得し、援助過程における対象の尊厳と権利を擁護する方法を学ぶ。	1後	15	1	○	△		○	○							
○		看護方法論Ⅴ-a (看護過程概論)	看護過程の概念である看護のプロセスについて規程した思考過程から、看護実践における対象の問題解決を図るための基礎的知識を学ぶ。	2前	15	1	○			○	○							
○		看護方法論Ⅴ-b (看護過程展開技術)	NANDAI看護診断の概念に基づきゴードンの機能的健康パターンの枠組みを用いて、看護過程の展開方法を学ぶ。	2後	30	1	○	△		○	○							
○		臨床看護学総論	看護の対象となる個人・家族・地域住民、またあらゆる年齢層の健康上のニーズをもつ人々に焦点をあてて、健康状態に応じた看護の考え方と看護の実際について学ぶ。	1後	30	1	○			○	○							
○		基礎看護学実習Ⅰ	入院患者の療養環境を知り、患者にとっての良い環境を考える。患者の健康状態の把握をし、日常生活上の必要な援助を実施する。	2前	90	2				○	○	○						○
○		基礎看護学実習Ⅱ	対象の発達特性・健康特性を踏まえ、看護問題を解決する援助計画を立案・実施・評価する。	2後	90	2				○	○	○						○

○		成人看護学概論	成人各期の特徴、成人期の多様な生活様式を理解し、個人家族に生じる健康問題を予防・緩和するための成人看護の役割・機能について学ぶ。成人保健の動向を踏まえて、成人の健康維持増進について学ぶ。	1後	30	1	○				○							
○		成人看護方法論Ⅰ	周手術期にある人の特徴を理解し、患者に行われる治療処置、援助を学ぶ。ターミナル期にある人を理解し、患者・家族を支える看護援助を学ぶ。	2前	30	1	○				○							
○		成人看護方法論Ⅱ	呼吸機能障害、脳・神経機能障害、消化・吸収機能障害のある患者の看護援助を学ぶ。	2前	30	1	○				○							
○		成人看護方法論Ⅲ	内部環境調節機能障害、栄養機能障害、循環機能障害のある患者の看護援助を学ぶ。	2前	30	1	○				○							
○		成人看護方法論Ⅳ	運動機能障害、身体防御機能障害、感覚機能障害のある患者の看護援助を学ぶ。	2後	30	1	○				○							
○		成人看護学演習	成人期にある人の看護をするために、必要な援助を学び、その技術を習得する。機能障害別に事例を用いた演習を行い、患者に適切な看護実践を行うための思考力を養う。	3前	30	1	△	○			○							
○		老年看護学概論	老年期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴を理解し、老年期の健康に応じた看護の機能と役割を学ぶ。	2前	30	1	○				○							
○		老年看護方法論Ⅰ	健康な老年の生活機能の状態を理解し、援助の基本を学ぶ。	2前	15	1	○				○							
○		老年看護方法論Ⅱ	老年期にある対象の特徴的な健康障害を理解し、その看護を学ぶ。	2後	30	1	○				○							
○		老年看護学演習	老年期にある人の看護をするために必要な援助を学び、その技術を習得する。老年期にある人に適切な看護実践を行うための思考力を養う。	3前	30	1	△	○			○							
○		小児看護学概論	小児各期の形態的・機能的・精神的発達について学ぶ。また小児の成長発達に影響を与える環境因子として小児と家族、小児を取り巻く社会について理解し、社会がどのように小児を保護し、保健対策を講じているを学ぶ。	2前	30	1	○				○							
○		小児看護方法論Ⅰ	小児に特有な健康障害の病態生理と治療について学ぶ。	2前	15	1	○				○							
○		小児看護方法論Ⅱ	小児に出現しやすい症状、小児各期に特有な健康障害を理解し、各健康段階にある小児とその家族への援助を学ぶ。	2後	30	1	○				○							

○		小児看護学演習	小児に必要な援助を学び、その技術を習得する。小児に適切な看護実践を行うための思考力を養う。	3前	30	1	○	△		○	○							
○		母性看護学概論	母性看護の概念を学ぶ。リプロダクティブヘルス/ライツについて知り、母性看護における健康課題と看護について学ぶ。	2前	30	1	○			○	○							
○		母性看護方法論Ⅰ	妊娠期にある対象を理解し、健康的な妊娠期を送り分娩を迎えることができるための看護を学ぶ。妊娠期の異常と看護について学ぶ。	2後	15	1	○			○	○							
○		母性看護方法論Ⅱ	分娩期・産褥期・新生児期の異常と看護について学ぶ。	2後	30	1	○			○	○							
○		母性看護学演習	妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期に必要な看護技術を学ぶ。産褥期にある人に看護実践をするための思考力を養う。	3前	30	1	△	○		○	○							
○		精神看護学概論	精神看護の基本理念を理解し、心の健康を維持・増進するための援助を学ぶ。	2前	30	1	○			○								○
○		精神看護方法論Ⅰ	精神の健康障害の診断から、その治療を学ぶ。	2前	15	1	○			○								○
○		精神看護方法論Ⅱ	精神の健康障害や精神症状によって影響された患者の看護援助を学ぶ。	2後	30	1	○			○								○
○		精神看護学演習	精神の健康障害をもつ人に接する姿勢を学ぶ。精神に障害がある人に看護実践をするための思考力を養う。	3前	30	1	△	○		○								○
○		成人看護学実習Ⅰ	急性期にある患者の看護を学ぶ。	3後	90	2				○	○	○						○
○		成人看護学実習Ⅱ	終末期にある患者の看護を学ぶ。	3後	90	2				○	○	○						○
○		成人看護学実習Ⅲ	慢性期にある患者の看護を学ぶ。	3後	90	2				○	○	○						○
○		老年看護学実習Ⅰ	施設・在宅における高齢者の看護を学ぶ。	3後	90	2				○	○	○						○
○		老年看護学実習Ⅱ	健康障害をもつ高齢者の看護を学ぶ。	3後	90	2				○	○							○
○		小児看護学実習	小児とその家族を理解し、対象に応じた看護が実践できる基礎力を養う。	3後	90	2				○	○							○
○		母性看護学実習	周産期の看護を学ぶ。	4前	90	2				○	○							○

○		精神看護学実習	精神障害をもつ患者の看護を学ぶ。	4前	90	2			○	○								○
○		在宅看護論	在宅看護の概念を学ぶ。地域で療養生活を送る個人やその家族について理解し、提供する基本的な看護を学ぶ。在宅療養を支える制度と社会資源を学ぶ。	2後	45	2	○			○								○
○		在宅看護論演習Ⅰ	在宅における生活援助技術を習得する。	2後	30	1	△	○		○								
○		在宅看護論演習Ⅱ	在宅で療養する患者に適切な看護実践を行うための思考力を養う。	3前	30	1	△	○		○								
○		公衆衛生看護学概論	公衆衛生看護の基本理念と考え方、活動の概要、人々と健康、地域看護の場・関係法令・歴史等、公衆衛生看護活動に関する基本を学ぶ。	1後	45	2	○	△		○								○
○		公衆衛生看護活動展開論Ⅰ	地区を把握する方法を理解し、地域の顕在化・潜在化している健康課題を明確化し、健康課題への支援を計画・立案する方法を学ぶ。	2後	45	2	○	△		○								
○		公衆衛生看護活動展開論Ⅱ	健康課題を解決するための地域組織活動を支援する方法を学ぶ。	3前	15	1	○			○								
○		健康教育論	個人・家族・集団・組織の健康増進・改善を目指すアプローチの基本的な考え方を学び、対象への健康指導が実践できる基礎的能力を習得する。対象者が自らの健康状態を認識し生活習慣の改善方法を自らが選択し、行動変容に繋げる指導方法を学ぶ。	3前	45	2	○	△		○								
○		家庭訪問技術論	家族を単位として生活の場で健康課題を解決するために行う援助活動である家庭訪問について学ぶ。	3前	30	1	○			○								
○		対象別保健活動論Ⅰ（母子）	母子を対象とする保健活動の動向や対象特性を理解し、対象にあった保健活動が展開できるための基礎知識と技術を学ぶ。	3前	15	1	○			○								
○		対象別保健活動論Ⅱ（成人・高齢者）	成人高齢者を対象とする保健活動の動向や対象特性を理解し、対象にあった保健活動が展開できるための基礎知識と技術を学ぶ。	3前	30	1	○			○								
○		対象別保健活動論Ⅲ（精神・障害者）	精神・障害者の保健活動の動向や対象特性を理解し、対象にあった保健活動が展開できるための基礎知識と技術を学ぶ。	3前	15	1	○			○								
○		対象別保健活動論Ⅳ（難病・感染症）	難病や感染症の保健活動の動向や対象特性を理解し、対象にあった保健活動が展開できるための基礎知識と技術を学ぶ。	3前	15	1	○			○								

○		産業保健・学校保健	産業の場における保健・看護の制度とシステムを理解し、労働者の安全と健康の保持増進を図る上での健康課題の現状と活動の実際を学ぶ。学校保健の役割機能・目的を理解し、学校の間における健康課題と保健活動の実際を学ぶ。	3 前	30	1	○		○	○								
○		公衆衛生看護管理論	地域住民の健康レベル向上を図るための管理・運営について学ぶ。住民の権利保障とリスクマネジメント・健康危機管理について学ぶ。	4 後	15	1	○		○	○								
○		看護管理学Ⅰ	チーム医療及び他職種との協働において看護師としてのメンバーシップ、リーダーシップを理解し、看護をマネジメントできる基礎的能力を養う。医療安全の重要性を学び、リスクマネジメント、感染予防、薬物管理において必要な行動を学ぶ。	3 前	15	1	○	△	○	○								
○		看護管理学Ⅱ	国際社会において、広い視野に基づき、看護師として諸外国との協力を考える。災害直後から支援できる看護の基礎的知識について学ぶ。	4 後	30	1	○	△	○	○								
○		看護研究Ⅰ	看護における研究の意義や研究方法を理解し、看護の対象者との関わりの中で学習者自らが問題意識をもち、論理的に物事を探究し、看護を研究的視点でとらえられるような研究的態度を養う。	2 前	30	1	○		○	○								
○		看護研究Ⅱ	実習で受け持った事例をまとめることで、自己の看護を振り返り、今後の課題を明らかにする。	2 後	30	1	△	○	○	○								
○		看護研究Ⅲ	卒業研究：テーマの決定から研究発表までの一連のプロセスを踏む。看護研究の方法を学ぶ	4 後	15	1	△	○	○	○								
○		看護技術統合演習	実践の場で活用できる看護技術の能力を養う。	4 前	30	1	△	○	○	○								
○		在宅看護論実習	在宅療養する対象を理解し、在宅看護を学ぶ。	4 前	90	2			○	○	○							○
○		公衆衛生看護活動展開論実習Ⅰ	個人・家族・集団・組織の健康増進・改善を目指す支援の実際を理解し、市町における保健師の役割を学ぶ。	4 前	90	2			○	○	○							○
○		公衆衛生看護活動展開論実習Ⅱ	地域特性及び地域のニーズを把握し、健康課題を抽出し、保健計画を立案する方法を学ぶ。	4 前	45	1			○	○	○							○
○		公衆衛生看護活動展開論実習Ⅲ	産業や学校における健康課題や場の特性を理解し、保健活動の実際を学ぶ。	4 前	45	1			○	○	○							○
○		公衆衛生看護管理論実習	健康福祉センターの事業の実際を学ぶ。保健事業と保健師活動の実際を学ぶ。	4 後	45	1			○	○	○							○

○		総合実習	専門分野での実習をふまえ、看護業務の実際を学ぶ。	4 前	90	2			○	○	○	○
合計			103科目	3870単位時間(126単位)								
卒業要件及び履修方法							授業期間等					
所定の修業年限以上在学し、必要単位を修得して課程を修了したと認められることを卒業要件とする。履修方法は各関係法律および関係法令の定めによるものとする。							1学年の学期区分					
							前・後期			1学期の授業期間		

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。